

代表質問
安心・安全なまちづくりと市政運営

自民

金森 浩二 議員



問 今回の豪雨では、市内各所で浸水や道路冠水、河川・水路周辺の被害が発生しました。大網駅周辺では、令和元年、令和5年に続き今回も浸水被害が発生しています。災害発生後の対応だけでなく、被害を発生させない、あるいは最小限に抑える治水対策が重要です。これらを踏まえ、今後、本市の治水対策をどのように進めていくのか伺います。

答 千葉市に確認したところ、復旧のめどは立っていないとのことですが、市も生活に欠かせない主要な道路で、市民に大変な不便をかけていると認識しており、引き続き情報収集に努め、市ホームページやSNSで情報発信を行っていきます。

市長 大網駅周辺の排水対策は、県が進める小中川改修事業、市が進める金谷川改修事業に加え、新たに南玉地区幹線排水路の整備が必要との方針が県から示されています。市でも同排水路の改修や調整池の設置を検討しています。浸水被害対策を最重要課題と認識し、事業をスピード感を持って推進するため、新たな課を設置し、治水対策に重点的に取り組む準備を進めています。

問 河川や水路の改修、排水能力の向上、調整池の整備には、国・県との連携強化が重要です。市長として、国・県にどう働きかけ、治水事業の実現につなげるのか伺います。

答 山田台大網白里線バイパスの混雑は認識しています。新路線の建設や既存道路の拡幅には、千葉市との計画調整や用地取得など多くの課題があり、現時点で具体的な整備計画はありません。新たな道路整備計画には、国、県、千葉市を含めた関係機関が一体となった検討が必要で、広域的な連携の中で中長期の視点で研究していきます。

市長 8月18日の知事現地視察で、被害状況を説明し、金谷川改修事業、南玉地区幹線排水路および調整池の整備への支援を要望しました。知事からは、県と市が歩調を合わせ、整備を加速する必要があるとの話がありました。8月27日には国土交通大臣にも支援を要望し、引き続き早期の復旧・復興に向け連携して取り組んでいきます。

問 今回の豪雨により県道20号線、通称「大網街道」では道路の崩落や土砂崩れが発生し、通行止めとなりました。通勤・通学、物流などに欠かせない道路です。復旧の見通しに

ついて、市が把握している状況を伺います。

答 千葉市に確認したところ、復旧のめどは立っていないとのことですが、市も生活に欠かせない主要な道路で、市民に大変な不便をかけていると認識しており、引き続き情報収集に努め、市ホームページやSNSで情報発信を行っていきます。

関連質問

斉藤 完育 議員



問 令和元年の台風・大雨災害の教訓を、その後の対応にどう活かしたのか。また、今回新たに見えた課題は。

答 令和元年は稲わらの流出・堆積が排水機能を阻害したため、稲刈り後の速やかなすき込みを周知してきました。今回は長時間冠水による水稻や野菜への影響が懸念され、早期解消を図る排水体制の整備が課題です。

問 被災農業者の営農継続の意向や、再建に必要な支援を、どう把握し繋げますか。

答 農地パトロールや聞き取り、県・JＡと連携した現地調査で被害状況を把握し、国・県の支援事業を活用するとともに必要な情報提供を行います。

問 安心して営農を続けられる環境づくりについて市長のお考えは。

市長 農業は本市の基幹産業です。県や関係機関と連携し、国への支援措置を働きかけるなど、きめ細やかな支援により安心して農業を続けられる環境づくりに努めます。8月27日には熊谷知事と内閣府に赴き、激甚災害指定を要請しました。

激甚災害に指定されることがゴールではありません。支援が農業者一人一人に届き、その先も営農を続けられて初めて本当の再建です。農業者の皆様にも、市民の皆様にも「この街は自分たちをちゃんと見ていてくれる」と思っていただけの大網白里市にしなければなりません。議会と執行部がそれぞれの役割を果たし、市民の声を聞きながら改善を重ね、私自身も災害直後だけでなく、生活や営農が再建されるまで現場の声を聞き続けてまいります。

関連質問

土屋 忠和 議員



長国、九十根地区の千葉豪雨被害について、市・担当課の意見を聞く。

問 今回の浸水被害は河川からの外水氾濫によるものなのか、それとも排水能力を超えた内水氾濫によるものなのか、市はどのように認識しているのか。お聞かせください。

答 河川状況につきまして管理者である千葉市に確認したところ、2級河川南白亀川および、小中川よりの越水は確認されていないことです。市としては、線状降水帯での豪雨による内水氾濫が発生し、地区全体が冠水したものと考えております。

課長が右の答弁で示されたように、内水氾濫が明確化し、長国・九十根地区の水害への重要性の本質を捉え、市も理解したと承知をいたしました。

問 凄まじい豪雨によって進入路が冠水すると、排水機場へ進入することができず、施設の操作、肝心なポンプの稼働にも支障をきたす事態となります。福岡排水機場までの進入路について、冠水時に安全に進入できるよう、どのような整備や対策をお考えか、伺います。

答 千葉県や地元関係団体と今回の事態を検証するとともに、適時適切な操作が行えるよう、今後の対策について千葉県へ要望してまいります。

問 福岡排水機場の遊水池が今回の豪雨を受け土砂が堆積している状況を確認しました。今後、定期的に清掃等を行う予定はあるのか、伺います。

答 遊水池の土砂が堆積していることにより排水機場貯留能力の低下が懸念されることから、堆積土砂を撤去するなど適正な機能が図れるよう維持管理に努めてまいります。

◎治水効果の見直しとして大容量の排水設備の整備を要望いたします。

個人質問

災害関連死を生まないために避難所に必要なのはTKB48。実現を！
日本共産党

佐久間 久良 議員



問 レベル4、レベル5が発令されている下、避難に際し、食料や飲料水、毛布など身の回りのものを持参の上、避難と告知。命の危険があり、直ちに避難しなければならぬ状況の下で、不適切ではないか。

答 市で、全ての物資をそろえることは不可能。日頃から市民に食料、飲料水の備蓄を呼びかけるとともに、避難の際には、持参するようお願いしている。最も重要なのは人命。状況により避難時に持ち出せない場合もあり、避難者から求められ場合は、市で備蓄している物資の提供を速やかに行っていきます。

問 指定避難所に備蓄品などは備えているのか。緊急避難所はどうするのか、また、福祉避難所を増やしていく考えはあるのか。

答 指定避難所16か所には、全て備蓄倉庫を備えている。倉庫内には水、食料、毛布、ロールマット、ベッド、簡易トイレ、パーティション、発電機等を備蓄しており、必要に応じて、各避難所の状況に応じた備蓄品を保管するよう努めている。

次に、6つの施設等を福祉避難所としており、このほか、特別な配慮を必要とされる方々の避難所として、民間の高齢者施設など24施設と福祉避難所の協定を締結。現状では充足していると考えますが、必要に応じて、関係施設との協定など福祉避難所の確保に努めていきたい。

避難所に必要なのは、TKB48。Tはトイレ、Kはキッチン、Bはベッドを48時間以内に整備することだ。避難者は、災害の後だから、わがままは言わずに我慢しなくてはという意識を多くの方が持つ。その我慢が災害関連死の要因にもなる。精

神的・肉体的に大きなダメージを受けて避難してくる被災者、命を守るためにも、避難所は我慢するところではあってはならない。

問 県は、基本方針として、備蓄等に係る考えを示している。この考えに基づいているのか。その量についてもお答え頂きたい。

答 千葉県地震被害想定調査を基に、避難者の3割が食料、飲料水を持参するものと見込んだ上で、3日分の食料、飲料水を確保できるように努めています。災害備蓄品は、食料が4万3,962食（111.9％）。飲料水が3万1,280ℓ（79.7％）。組立て式トイレが106基（103.6％）。毛布が3,232枚（103.6％）。このほか、紙おむつや生理用品は備蓄目標の数量以上に補充しております。

問 もともと不平等があるのに、災害でジェンダー格差が広がり、高齢者、障がい者、子どもなど要配慮者と女性に、より多くの被害をもたらされる。災害時に弱者を生まないためにも、女性や民生委員、地域包括ケアの関係者などが避難計画等を作成する段階はもちろん、避難所運営や意思決定に参画することが重要だと考える。

答 避難所運営マニュアルで、避難所運営は、避難者の中から区、自治会、自主防災組織の関係者を構成員とする避難所運営委員会を設置し、女性や要配慮者への支援や対策を図るとされており、また、構成員として女性の協力をいただき、女性などの視点に立った運営を図る。今後は、防災政策の改定に当り、災害弱者の意見を積極的に反映できる体制づくりに努めていきます。